

コロナや災害対応で 県職員ますます長時間労働

予算特別委員会が3月11日から26日まで開かれ、日本共産党の堤栄三・えんど久子両県議は、連日複数の項目で質疑しました。

時間外勤務 156時間も

大分県職員の2020年度の時間外勤務が一番長い人はコロナへの対応のために月156時間。過労死ラインの月100時間以上の人は291人(昨年4月～1月)であり、昨年度の127人より大幅に増えています。3月12日、猿渡(えんど) 久子県議の質問への答弁です。

コロナの対応で多忙を極めた保健所業務については、警察など他の部署含め保健師全員で応援する、土木事務所などの職員が保健所も兼務する、臨時職員を増やす、など県全体で支えてきたとのことでした。

検診で再検査 741人

その後に質問した県民クラブの守永議員に総務部長は「これまでも児童相談所や保健所など必要な部署には人員増を行ってきたので、今後とも場合によって定数増も含め考えたい」と答弁しました。

また、県民クラブ馬場議員の質問に「3187人が定期健診を受け、その内741人(23.2%)が再検査が必要だった」との答弁で、驚きました。

新型コロナウイルスや7月豪雨への対応で、職員のみなさんは緊急事態から県民を守るために懸命にがんばっており、その結果、長時間労働が深刻です。



「県職員の残業時間が多く改善が必要だ」と質問するえんど久子県議。
2021. 3. 22. 大分県議会 福祉保健生活環境委員会

職員の健康は県民のため

3月22日、福祉保健生活環境委員会で「本庁でも時間外勤務が多く、人員増が必要ではないか。職員のみなさんが健康に働き続けられるようにすることは県民にとって重要なことだ」と、えんど県議。緊急時にもしっかりと対応できるよう、今後とも職員増などにはがんばります。

えんど久子県議 予算特別委員会 で質疑

多様性に配慮した学校に

ジェンダーフリーの制服を

18日の予算特別委員会は教育委員会など。えんど県議は、性的少数者やいろいろな障がいをもつ方など多様性に配慮した学校の環境整備を求めました。「県立校に障がい者トイレ(多目的トイレ)がないのは残り4校で、この4校は計画的に整備していく。更衣室なども検討したい」と答弁がありました。

また、男女差のないジェンダーフリーの制服を求め、県立高校38校中16校で選択制を導入(21年4月時点)、との回答でした。

第三者機関の事務局は外部に

えんど久子県議は「南石垣支援学校の事故調査委員会は第三者機関だが、事務局を教育委員会の担当課においていた。第三者性を明確にするために教育委員会の外に置くべきだった」とえんど久子県議。

県教育委員会は「事故調査委員会の設置については、文科省の指針で、特別の事情がない限り学校の設置者とする、と示されている。この指針を踏まえて特別支援教育課が担った」と答弁。死亡事故は、特別の事情だと思えます。えんど県議は「真摯に向き合う姿勢が必要だ」と求めました。

日出生台での訓練さらに拡大を懸念

大分県は、日出生台での米軍演習について、午後8時以降の射撃の自粛を日米の合意事項にすること、年35日以内の実弾射撃訓練の日数の遵

守などを防衛大臣に求めてきました。米軍はこれを拒否。3月22日、県議会の福祉保健生活環境委員会で「県として引き続き訓練の縮小や将来的な廃止を求めていく」などと説明がありました。

「これまでも訓練は拡大してきた。このままではさらに拡大が懸念される。大分県として訓練の受け入れを拒否すべきでは」とえんど久子県議。これに対し「国の専管事項であり、拒否することは選択肢がない」と県の担当者。

「1年間いろいろなレベルで防衛省が米軍に求めてきたが拒否された。県民を守るのが県の仕事だ」と、えんど県議。

今後とも力をあわせましょう。

